

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
505	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
Prospective study of adolescent alcohol consumption and risk of benign breast disease in young women. 若年女性における少女期の飲酒と良性乳腺疾患リスクについての前向き研究	
<b>執筆者</b>	
Berkey CS, Willett WC, Frazier AL, Rosner B, Tamimi RM, Rockett HR, Colditz GA.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Pediatrics. 2010;125:e1081-7.	
<b>キーワード</b>	
若年女性、少女期の飲酒、良性乳腺疾患	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 若年女性において、少女期の飲酒と生検で確定させた良性乳腺疾患リスクとの関連について、前向きに調査を行うこと。</p> <p><b>方法：</b> 基礎調査時に9歳から15歳のアメリカ人女性を対象とし、1996年から2001年にかけて1年毎に質問表により調査を行った、前向きコホート研究である。なお質問表を用いて2003年、2005年、および2007年にも追跡調査を行った。2003年の調査では、16歳から23歳の女性対象者から、前年の飲酒量の情報を得た。2005年と2007年の調査において、18歳から27歳までの合計6899人の女性のうち、健診で良性乳腺疾患と診断されたのは147例、および生検により良性乳腺疾患と確定診断を受けたのは67例、良性乳腺疾患ではなかったのは6752例であった。</p> <p><b>結果：</b> 年齢およびBMIを調整後、飲酒量は生検で確定された良性乳腺疾患のリスク増加と関連を認めた(1日飲酒1杯あたりのオッズ比 1.50【95%信頼区間 1.19-1.90】)。週に6-7日飲酒していた少女は、週に1日未満の飲酒の少女と比較して、よりリスクが高かった(オッズ比 5.50【95%信頼区間 1.23-24.53】)。</p> <p><b>結論：</b> 若年女性において、少女期の飲酒量の増加、および飲酒回数の増加は、良性乳腺疾患の発症を増加させる可能性がある。10代女性に飲酒を避けるように指示することは、喫煙や日焼けと同様に、成人後の癌発症率の抑制につながる可能性がある。</p>	